

資料7 スクリーニングの実際とその後のフォロー

(厚生労働省地域におけるうつ対策検討会、うつ対応マニュアル、平成16年1月より抜粋)

1 うつ病と自殺の予防にスクリーニングを活用する

地域の自殺予防の効果を上げるためには、行政機関、医師、保健師、住民組織等が協力してうつ病を早期に見つけ、治療介入を行うことがきわめて重要であり、地域でうつ病や自殺などの精神保健に関する問題を積極的に話し合えるような雰囲気を作り上げていくことが重要です。

ここでは、厚生労働省の研究班が作成したスクリーニング質問票（主任研究者：大野裕）を用いたスクリーニングの実際について、説明をします。

2 スクリーニングの実際

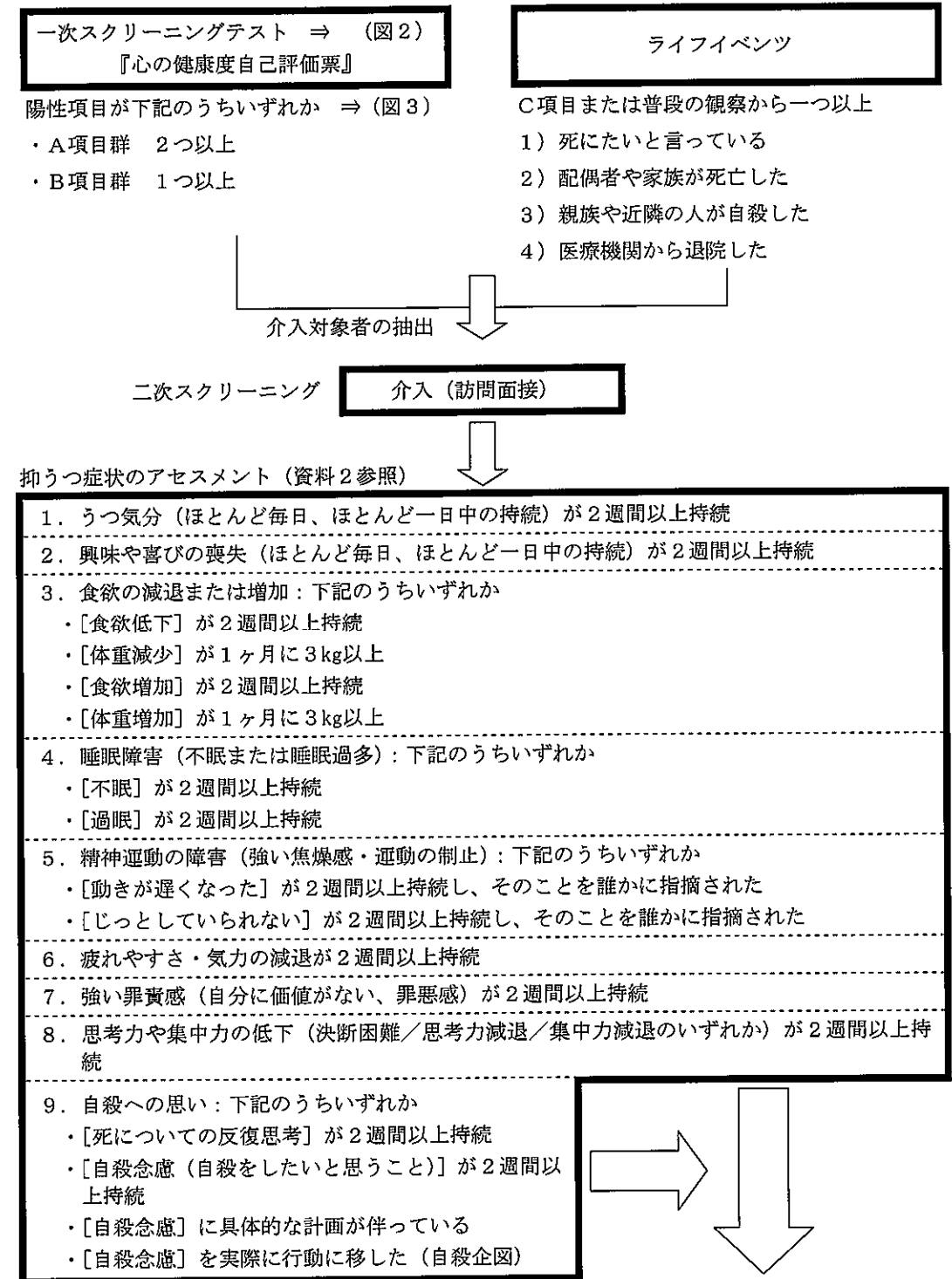
スクリーニングの活用場面としては、以下が考えられます。

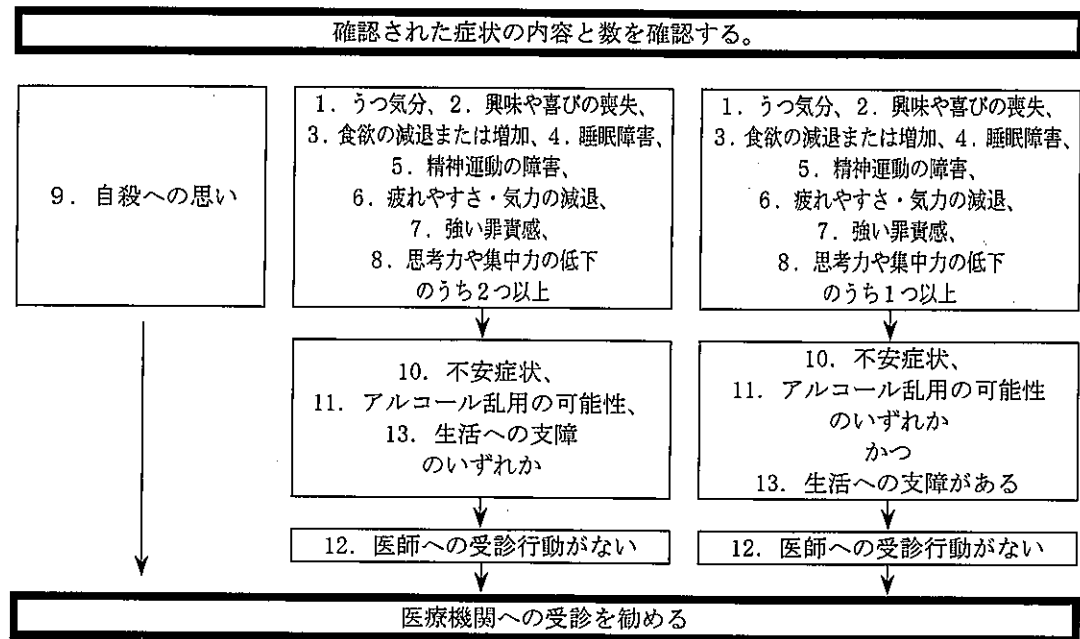
- ☆ 保健師の訪問時のスクリーニング
- ☆ 市町村全体の住民を対象とした定期のスクリーニング
- ☆ 地域の病院の受診時（医療スタッフによるスクリーニング、または自己チェック）
- ☆ 民生委員、保健推進委員が見守りや声かけを行い、必要に応じて保健師など地域医療従事者と連携する。

ここでは、市町村が実施する基本健康診査にスクリーニングを導入した場面について説明をします。

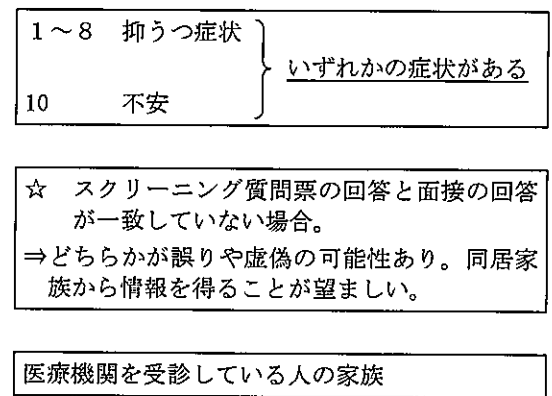
- (1) 基本健康診査にスクリーニングを導入した場合のフローチャート（図1）
- (2) 一次スクリーニングテスト『心の健康度自己評価票』（図2）
- (3) 一次スクリーニングテスト判定票（図3）
- (4) 二次スクリーニングアセスメント

図1 基本健康診査にスクリーニングを導入した場合のフローチャート





訪問面接を行ったが、「医療機関への受診を勧めめる」に該当しない者は、すべて経過観察の対象とする。



いずれかの場合

医療機関の受診を勧めめるまでではないが、経過観察が必要

図2 一次スクリーニングテスト

『心の健康度自己評価票』

年 月 日

最近のあなたのご様子についてお伺いします。次の質問を読んで、「はい」「いいえ」のうち、あてはまる方に○印をつけてください。

A	1. 毎日の生活が充実していますか	1. はい	2. いいえ
A	2. これまで楽しんでやれていたことが、いまでも楽しんでできていますか	1. はい	2. いいえ
A	3. 以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられますか	1. はい	2. いいえ
A	4. 自分は役に立つ人間だと考えることができますか	1. はい	2. いいえ
A	5. わけもなく疲れたような感じがしますか	1. はい	2. いいえ
B	6. 死について何度も考えることがありますか	1. はい	2. いいえ
B	7. 気分がひどく落ち込んで、自殺について考えることがありますか	1. はい	2. いいえ
C	8. 最近ひどく困ったことやつらいと思ったことがありますか	1. はい	2. いいえ

↓

「はい」と答えた方は、さしつかえなければ、どういうことがあったのか、ご記入ください。

図3 一次スクリーニングテスト判定票

一次スクリーニングテスト判定方法	
A項目：問1～問5	B項目：問6～問7
C項目：問8・・・自殺の危険性が高くなる項目	
スクリーニング陰性番号	
問1：はい	問3：いいえ
問2：はい	問5：いいえ
問4：はい	問6：いいえ
	問7：いいえ
陽性番号が、A項目2つ以上 あるいは B項目1つ以上 → 二次スクリーニングへ	
C項目	記載内容により判断する
	配偶者や家族の死亡
	親戚や近隣の人々の自殺
	医療機関からの退院 等の場合 → 二次スクリーニングへ

※：質問票の「最近」とは「最近2週間」を意味する。

※：問6の「死」とは、「自殺に結びつくような死」を意味する。



一次スクリーニングで危険性が高いと判断された人に、面接による二次スクリーニングを実施。

〔参考〕図1-3は、平成11-12年度厚生科学研究費補助金障害保健福祉総合研究事業「うつ状態のスクリーニングとその転機としての自殺の予防システム構築に関する研究」総合研究報告書（主任研究者、大野裕）において開発。なお、報告書によると、スクリーニング調査票の項目は地域在宅高齢者を対象にGeriatric Depression Scale（GDS；Yesavage、1988）が6点以上の抑うつ群との関連をみたところ、本スクリーニングで2点以上の場合の感度は.705、特異度は.729であった。

この他にもうつ病に関する質問票（GDS、Self-rating Depression Scale（SDS）、Center for Epidemiological Studies Depression（CES-D）、Quick Inventory of Depressive Symptomatology（QIDS））が開発、使用されているので、対象者によってこうした質問票を併用したり、睡眠や食欲などの身体症状やADL、社会的支援の有無などもあわせて聴取したりすることが望ましい。